
神様のおもちゃ箱

仁科治

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神様のおもちや箱

【Nコード】

N5194L

【作者名】

仁科治

【あらすじ】

コップに酒をつぎ終えた店員は、伊藤と私を見比べた。ここで勘定を締めたいのですが。いくら。

「？ー5 「二万ばかり貸してくんねえか」

「？ー5 「二万ばかり貸してくんねえか」

これが何回目かのもう一杯だった。

コップに酒をつぎ終えた店員は、伊藤と私を見比べた。ここで勘定を締めたいのですが。いくら。

「いいよ、俺が」

そういつて伊藤は立ち上がってぐいとコップをあおると、テーブルの端に体を打ちつけながらそのまま表に出て行った。

私はしばらく待って伊藤が戻らないのを確認してから、勘定を済ませた。

「よく来るの、あの人」

「そんなに」

「いつも、ああなの」

「ええ」

店員は苦笑いとも渋面とも取れる曖昧な顔で釣り銭を返してよこした。

店の表にも伊藤の姿はなかった。そうか、なるほどね。

私は自分に納得させて表通りに出ようとすると、通りと反対側のガードよりのさらに奥へ入った暗がりからこちらへ手招きしている影がある。まさか。

近づいてみた。

伊藤だった。ずんぐりした体つきが懸命に手招きしている。ずいぶん押さえた声で呼んでいた。

「こっちへ、早く。こっちへ。ほらほら、早く、早くうー！」

伊藤の右手は早くなって動いた。どうしたんだ。こっちへ早く。えっ、どうしたんだよ。早く、こっちへ。

私は、伊藤の横に立った。

「ここんとここに、ここんとこ、よく見てみなよ」

伊藤は地面を指差していた。

しゃがみ込むと、表通りの明るさがよく見えた。逆に、そこからはここがまるで見えない位置にあった。

「若い女がよく見えるだろ」

ああ、と答えて立ち上がろうとすると、私の顎の下に固い腕が入ってきて、後ろから頭を押さえられた。

「悪いけどよ、二万ばかり貸してくんねえか。明後日までいいんだ。必ず返す。はつきし言って、明後日の九時、ここに持つてくる。いや、一〇時だ。金が必要なんだ。かかあが待っているんだ」

酒臭い息が耳元で言った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5194/>

神様のおもちゃ箱

2010年10月11日13時44分発行